



Manhattan

Kinuta Park

Novi Sac

Forssa

Helsinki

Belgrade

BabyPlane

Chiang Rai

Aoyama-dori

Toyama

Nagaoka

Setagaya

Aoyama

Matsudo

music

Kashiwa

Narita

Unga

i-lab

picnic

The other side of
fab C.
vol.13

fab C.
vol.13

picnic interview

dishes

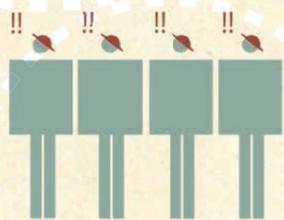
City Center

fabulous

City
Creativity
Curiosity

INDEX

目次



LAB PROJECT 06

研究室プロジェクト



THESIS & DESIGN 11

論文 & 設計

fab C. は伊藤研究室（東京理科大学工学部建築学科）が発行するフリーペーパーです。研究室の活動を中心に都市の研究とデザインに関する情報やメッセージを発信する媒体を目指しています。



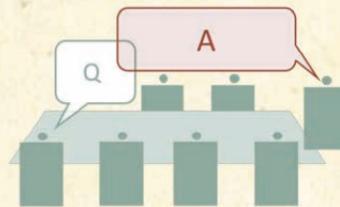
WORKSHOP 08

ワークショップ



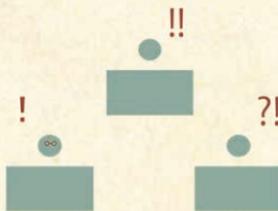
MUSIC & THE CITY 14

都市と音楽



OPEN LAB 04

オープンラボ



INDIVIDUAL PROJECT 10

個人プロジェクト



PICNIC INTERVIEW 19

ピクニックインタビュー

Members

Professor	伊藤香織		
Assistant Professor	Andrew Burgess		
M2	M1	B4	
鈴木俊	福嶋佑太	一谷和希	中谷柗介
川越拓志	堀野智寛	伊藤ちひろ	林卓弥
菅野碧	盛田瑠依	菊嶋勇介	藤田有琳
中野拓朗		小山朝子	松下耕太
		齊藤匠	吉田奈央可
		櫻井優祐	
		鈴木晴瑛	
		高梨淳	
		田邊真弓	研究生
		常泉佑太	劉傑峰

fab C. vol.13

2019年1月1日発行

◇編集

常泉佑太 藤田有琳

◇発行

東京理科大学工学部建築学科
伊藤香織都市計画都市デザイン研究室
〒278-8510
千葉県野田市山崎 2641
TEL 04-7123-4785
URL <http://www.rs.noda.tus.ac.jp/~i-lab/>

◇印刷・製本

祥美印刷株式会社

第1回(2018/5/17)

・Chieの輪読表
 ・まつど市民活動サポート
 センター長

阿部剛さん(5期生)



市民活動って何ですか？

自分たちの暮らしをより良くしたいとか、そもそもどう暮らしたいかをどうするかが欲しいんだ？という思いをベースに、誰かに頼むのではなく自分たちの力で実現しようとする事です。

どんなお仕事をされているんですか？

まちに関わる仕事と子どもに関わる仕事をしています。市民活動サポートセンターでコーディネーターとして「地域をより良くしたい」という気持ちの実現のために集まった松戸市の様々なNPO団体や暮らしづくりをしている人たちの支援をしています。また、より良い暮らしのために自分でもアクションを起こしていて、自分自身が「こういう暮らしの方がいいな」と思うことをプロジェクトの形でしています。

新しい価値観を広めるアクティビ

ティやアプローチの仕方を教えて下さい！

例えば、市民活動をPRするために開催している「みらいフェスタ」は、チラシの配り方やデザインまで含めて「楽しそう」をコンセプトにブランディングしていきました。最初はイベントで人が全然来ないこともありましたが、「楽しそう」をアピールすることで、道行く人に興味を持ってもらうことに成功し、今までいなかった新しい層の人たちを誘い込めたと思います。

最近子どもたちが遊んでる姿あんまり見ないような... 現代っ子たちの遊び方は以前とは違うんですか？

時間・空間・仲間の3つの間があれば遊びは生まれると言われています。しかし今の子どもたちは習い事ばかりで時間がなく、公園にも禁止項目(火を起すこと、ボール遊びなど)ばかりで空間もない。親の許可がないと遊ぶことができないため仲間もできない。残念ながら今の子どもたちには間がないのです。

子どもたちの変化は社会の変化と関係ありますか？

子どもという概念が薄れて、子どもが大人化していることが関係していると思います。心の成長も伴っていればいいのですが、表層的な知識の成長だけではバランスが取れません。人との距離感や困った時の対処法がわからないと、悩みを抱え込んだり社会に押し込まれてしまうという息苦しい状態になってしまいます。だから心を成長させるには、子供のうちにたくさん失敗して、いろんな経験をする事がとても大事になってくると思います。



第2回(2018/11/21)

株式会社アルメック

小島桃子さん(1期生)



都市計画コンサルタントってどんなお仕事なんですか？

国や県や市町村から仕事を発注されて、住民の声を聞いたり、調査や分析、計画の立案をしたり、行政のパートナーの様な存在として、多岐に渡る仕事をしています。「運河エリアライトアップマスタープラン」では、東京都や照明の専門家といっしょに、東京港沿いの運河を対象に、ライトアップの社会実験を行い、夜景の景観計画を作りました。「平塚駅前活性化事業」では、市役所といっしょに、商店街の活性化を目指して、市のビジョンと各店舗のやりたいことをすり合わせるワークショップやイベントの実施のお手伝いをしています。都市計画コンサルタントには、建築出身だけでなく土木出身の方も多く、専門の出身によって考え方や感覚が違ってくるのも面白いと思います。

海外でのお仕事内容を教えてください！

主に発展途上国で交通計画の仕事をしており、日本が持っている経験や技術などのノウハウを活かした業務をしていました。1ヶ月間海外で現地の人とコミュニケーション、1ヶ月間日本で資料作り、といった生活を繰り返し、1年間のうち6ヶ月出張していたときもありました。発展途上国は経済格差が大きいので、交通計画では社会的弱者への配慮をしないとよく言われます。実際、公共交通は貧しい人も都心部の就労機会にちゃんとアクセスできるように、常に安価で提供されています。一方で、自動車交通の発展=都市の発展と考えられているので、車中心の都市が目立ちます。

途上国の都市発展をどうお考えですか？

人が憩うことよりも経済発展を優先する国が多く、渋滞解消のために歩道をどんどん潰して車道にしたり、また外国資本が入って幹線道路や高級住宅地などが短期的な視点で暴力的に作られています。それらは将来の都市の痛手になってしまうため、とても心配です。途上国では、相互扶助の精神が日本よりも強いと感じます。都市の発展とともに、コミュニティをいかに壊さないかというところがとても大切になってくると思います。

学生時代と働きはじめてから都市計画に関する考え方は変わりましたか？

学生時代はピンと来ていませんでしたが、実務でやってみると都市計画は奥深くてやり甲斐を感じます。開発や用途地域の変更が周りにどんな影響を与えて、風景がどう変わるのかなど、制度だけではなく現場も一緒に考えながら議論を進めるのはすごく面白いです。また目指す都市の姿に向かってひとつひとつ仕組みや制度を作っていく時に、意思決定の手段や、申請の方法などの細かい部分の大切さにも気づかれます。

LAB PROJECT 研究室プロジェクト

研究室で取り組んでいるプロジェクトです。

青山のまちとひとのアーカイブ

田邊 真弓 (B4) 常泉 佑太 (B4) 中谷 柁介 (B4)

青山に暮らす人々と青山のまちの成り立ちを調査し、過去の記憶や資料をアーカイブするための活動をしています。

青山通り（国道 246 号線）沿道には、戦前から商店などを営んでいる方が大勢います。表参道交差点に面する山陽堂書店もそうした店舗のひとつです。店舗は太平洋戦争の山の手大空襲で焼け残り、1964年の東京オリンピック時に青山通りの拡幅のため 3分の1に削られたものの、現在もその建物で営業されています。

昔から青山に住んでいたり、働いている方から何うまちやコミュニティに関するお話は、今の高級エリアというイメージからは想像ができない発見が多く新鮮で、青山に対する印象が大きく変化しました。



1960年頃の青山通り沿道の風景

出典：「青山第一ビル竣工」水野成美氏提供



交差点に面する山陽堂書店



山陽堂書店でのインタビュー

シビックプライド研究会

鈴木俊 (M2) 盛田瑠依 (M1) 小山朝子 (B4)



シビックプライド研究会は12年目を迎えました。2018年には、都市を伝え都市への能動的参加を促す新たな事例研究や手法研究に取り組み始めました。研究会には、広告、デザイン、ランドスケープなど建築以外の分野のメンバーが多く、参加している学生にとっては新たな刺激に溢れています。

市原湖畔美術館「そのあそび」展

鈴木俊 (M2) 福嶋佑太 (M1)
盛田瑠依 (M1) 常泉佑太 (B4)



2018年7月14日～9月17日に開催された「そのあそび：ピクニックからスケートボードまで」展に出展した東京ピクニッククラブの作品「LET ME OUT!」の制作・設営を手伝いました。様々なアーティストの設営の様子など、美術館の裏側を見ることができたのは、貴重な経験でした。

WORKSHOP 海外ワークショップ

THE PROJECT NOVA MESTA WORKSHOP FTN-TUS 2018

2018/6/29-7/7
一谷和希 (B4) 藤田有琳 (B4)

セルビアのノヴィ・サド地区では、「Novi Sad 2021- 欧州文化首都」財団が、地区内の小さな公共空間において、市民が利用可能な新しい場所 (Nova Mesta) を、市民と地域社会の共同作業により創出することを目指しています。財団主催の実施コンペに向けて、ノヴィ・サド大学の学生たちと未利用地やうまく利用されていない外部空間を敷地にストリートファニチャーなどを提案しました。わずか3日という短期間での2つの公共空間設計、そして英語でのコミュニケーションは大変でしたが、楽しかったです。

様々な戦争や紛争を経験するセルビアの街並みは内戦の傷跡が建物の各所に見受けられます。建築家 Ivan Antić の Šumarice 美術館では第二次世界大戦の痛ましい記録や絵画が展示されていました。

しかし現在では、毎年ノヴィ・サドでヨーロッパ最大級のフェス EXIT が開催されるなど、人の熱気と活気で溢れるまちは、これからの発展を感じさせてくれました。



セルビア、フィンランドで行われたワークショップに伊藤研究室の学生が参加しました。

SUSTAINABLE TOURISM PREMISES FORSSA-TAMMELA WORKSHOP 2018

2018/8/12-8/17
鈴木俊 (M2) 田邊真弓 (B4) 常泉佑太 (B4)

現在、ヘルシンキ近郊の南フィンランドの文化と自然遺産の観光需要が高まり、特に東アジアからの観光客の増加が顕著です。WSの開催地であるフォルッサは都市や産業の歴史が豊富で、隣接するタンメラは美しい自然公園や農村地域を有しています。しかしながら、これらの地域は、外国人観光客の増加を持続可能な方法で受け入れる準備ができていません。

フォルッサの市役所で行われたWSでは、中国、台湾、日本、イラン、ドイツ、ギリシャなど、様々な国の様々な専門の学生で構成されたグループでのディスカッションを通して、外国人観光客としての視点から、観光戦略・観光施設を提案することが求められました。考え方や価値観が違う学生たちとの作業はとても刺激になりました。英語で意見を伝えるのは難しく、絵を描いたりして伝わった時はホッとしましたが、深い議論ができなかった悔しさもありました。

WS期間中は、湖のほとりのキャンプ場に泊まって各国の料理を自炊しました。自然豊かな環境で、サウナに入って湖に飛び込むという、フィンランドならではの体験も楽しみました。



INDIVIDUAL PROJECT

個人プロジェクト 学生個人で行なっている活動です。



主体(不)在の庭
第24回ユニオン造形デザイン賞 佳作A

鈴木俊(M2) 國分元太(山名研究室)

都市に、植物が主体性を獲得した庭をつくる
ことができるでしょうか。場の構造は残しつつ機
能を無効化することで、人の手から放棄され、
植物がやってくる余白になり、この惑星のため
の庭となります。



音楽活動とものづくり
CDジャケットのデザイン

中野拓郎 (M2)

学部 3 年から修士 1 年にかけて音楽活動
を行い、関係するプロダクトデザインを手掛
けてきました。一見、建築・都市と関係ない
活動のようですが、音楽・プロダクトなどア
イデアを形にし、人々に届くものを作る難し
さと楽しさを学ぶことができました。



Weather Street Furniture
第 3 回まちを楽しくするストリートファニ
チャーデザインコンペティション

福嶋佑太 (M1) 盛田瑠依 (M1)

私たちは気候と行動が呼応するストリート
ファニチャーを提案しました。カーテンとい
うフィルターを通して気候を感じられる空間
はヨコハマの環境に溶け込みながら人々の活
動の拠点となっていきます。

DESIGN

設計

2017 年度の卒業設計の優秀作品を紹介します。



まちの〇〇寺 ～白金台の子供・犬寺～
鈴木由貴

2017年東京理科大学建築学科卒業設計優秀賞
日本建築学会全国大会・高専卒業設計展示会出展



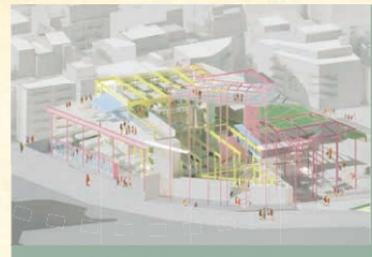
宿場町再復興～河川都市～
福嶋佑太

埼玉建築設計監理協会主催「第18回卒業設計コンクール奨励賞



わたしたちの居場所
盛田瑠依(元 安原研究室)

2017年東京理科大学建築学科卒業設計優秀賞



Evolució i Replicació Un Estudi de Mercats a Barcelona
鈴木俊 (バルセロナ留学時)

味わう建築

堀野智博

コミュニティサイクル「ひだりん」

松村凌汰

スタジアムと都市をつなぐ建築 北川淳

下北沢の景色

高橋大輝

【2017年度修士論文】

創造産業の立地と入居建物の特性

-ニューヨーク市マンハッタン区を対象として-

柴田史奈
(最優秀修士研究賞)

品揃えを考慮した食料品アクセスに関する研究

-新潟県長岡市を対象として-

植木規喬

親水公園の成立過程に関する研究

-江戸川区の古川親水公園を対象として-

落合みずほ

障害者福祉施設のサービスと立地に関する研究

大家弘也



柴田 図：カーネル密度分布を用いたクリエイティブ産業の集積特性

【2017年度卒業論文(通年)】

郊外部における自動車利用から他の移動手段への転換可能性

黒田博嗣 小林稜介 佐野健太

都市施設の利用及び評価が周辺地域への愛着形成に及ぼす影響

-富山市グランドプラザを対象として-

川上哲平 山下愛子

コミュニティサイクルのステーション設置場所に関する研究

佐藤彰哲

【2018年度卒業論文(一般)】

中心市街地活性化基本計画における事業集積の特性

一谷和希 高梨淳 松下耕太

ストリートパフォーマーによって見出される公共空間の特性

-粕駅東口ペDESTリアンデッキを対象として-

小山朝子 齋藤匠 吉田奈央

【査読付論文】

Yukari NIWA, Andrew BURGESS and Kaori ITO (2018), Questionnaire Study on the Relationship Between Disaster Awareness and the Recognition of Evacuation Points, Urban and Regional Planning Review, vol.5 43-66.

早川貴光, 伊藤香織, Andrew Burgess (2018), 北タイ山岳民族の住居にみられる都市化の影響に関する研究, 日本建築学会技術報告集, 24巻 56号, pp.339-344.

三浦大輝, 丹羽由佳理, 伊藤香織, Andrew Burgess (2018), 郊外部におけるシニア世代の自動車利用と代替手段, 都市住宅学会第26回学術講演会研究発表論文集, 都市住宅103, 120-125.

【学会口頭発表】

Ito, K. (2018). Modeling the Relationship between the Built Environment and Civic Pride. 2018 IGU Regional Conference in Quebec Abstracts.

Ito, K., Kameyama, K., Arai, S. and Burgess, A. (2018). Effects of Townscape/Landscape Evaluation on Place Attachment. American Association of Geographers 2018 Annual Meeting Abstracts.

堀野智寛・伊藤香織・Andrew Burgess (2018), ライブ・コンサート前の過ごし方みる都市利用, 日本建築学会学術講演梗概集, 都市計画, pp.373-374.

福嶋佑太・伊藤香織・Andrew Burgess (2018), 大学キャンパスにおける学生の行動特性:立地の異なる3キャンパスの比較, 日本建築学会学術講演梗概集, 都市計画, pp.699-700.

佐野健太・伊藤香織・Andrew Burgess・丹羽由佳理(2018), 郊外部における自動車利用から他の移動手段への転換可能性, 日本建築学会学術講演梗概集, 都市計画, pp.715-716.

川上哲平・伊藤香織・Andrew Burgess (2018), 利用者の施設愛着が周辺地域への愛着に及ぼす影響富山市グランドプラザを対象として, 日本建築学会学術講演梗概集, 都市計画, pp.1143-1144.

研究室のメンバーがまちの中で出逢った音楽のシーン を集めました。



1



2



3



4



5



6



7



8

1 ニューオーリンズの街角

音楽に溢れる街でも、10人と1匹(犬)のジャズバンドはひときわ目耳を惹きました。

5 ロンドンのストリート

ロンドンの雑踏の中でひとり強く歌う姿に心を打たれました。

2 柏の書店内スペース

コーヒーと本を楽しむ空間で、地元の方々が学生の演奏に耳を傾けていました。

6 ボルドーのレストラン前

市民の方が音を楽しみながら、自由に踊っていた姿が印象的でした。

3 エストニア・タルトゥの広場

小さなまちの小さな広場でのライブは市民の方々が賑わっていました。

7 サンアントニオの水上演台

治水と緑化による回遊路整備で著名なりパーウォーク。コンサートも楽しみのひとつ。

4 パリのメトロ

交通結節点のメトロ駅での演奏。都市の移動体験が楽しく豊かなものになります。

8 宮崎のストリートピアノ

みやざきアートセンターのピロティのピアノでは、通りすがりの人々が音楽を奏でます。



構築的な音楽からシンプルな音楽へ

中から世代関係なく、びつくりするような才能が出てくると思うし、そんなクリエイティブな場が東京だと思っ。

——新しい音楽を生み出すときどのように作曲されるのですか？

例えば、僕らの Earache という曲。音楽には、複数の異なる拍子のフレーズを同時進行させるポリリズムという手法があって、たいがいポリリズムは二つの要素が反復すると整数倍で合うんです。しかしこの Earache では、反復してもどこまでも合わないフレーズを使うように思いました。具体的には、シーケンソフトを使い、それぞれ割り切れない数値の速度 (BPM) のフレーズを走らせることで、ズレと噛み合うポイントを生み出す。その中で、心地良いズレと心地良い噛み合うポイントをチョイスし、フレーズを組み立てループを作る。レコードや CD の針飛びのようなツンのめったような不思議な演奏になった。なかなか言葉では伝わらないと思うので実際に曲を聴いてみてください (笑)。

こんな感じで、以前まではある種ギミック的な実験をすることに

新しさを感じてたんですけど、最近、複雑な新しさよりも、シンプルな方法でも心にグッと染み入る良い曲を作ることの方がクリエイティブではないかと思いはじめたんですよね。そこで制作されたのが『Tree (2018)』というアルバム。散々複雑なことをやりきったからこそ、よりシンプルになって来た感じ。

——建築物を見て、音のイメージが湧くのでしょうか？

薄いちゃうんですよね。例えば、映画のサウンドトラックみたいな感じですかね。建築物を見て映画みたいにごう音が合わさると完成するなっていうのが、想像できるという。

だから安藤忠雄展の直島のインスタレーションもそんな感覚で。僕は直島の地中美術館に四、五行行ってるんですけど、スリットがあるじゃないですか、移動しながら動く幾何学模様みたいになるものに、自分の中で音を当ててるんで

建築からのインスピレーションとは？

す。ヒュンツツみたいな (笑)。子供が、ブーンとか言うのと同じで。妄想だと思えますけどね。しかし、House on the Keys 結成当初から、安藤忠雄建築の写真やインスピレーションに作曲していただいて、今回本当に安藤忠雄さんと一緒にできて嬉しそうですね (笑)。妄想的なことを自信を持ってやり続けると現実化するもんなんだなと思いました (笑)。

※ピクニックインタビュは裏表紙からお読み下さい。



ピクニックインタビュー

ピクニックインタビューでは、毎回ゲストを招き一緒に食事を楽しみながら、くつろいだ雰囲気の中でお話を伺っています。今回は、世田谷の砧公園に川崎昭さんをお招きしました。

川崎昭さん (mouse on the keys)

音楽家、インストゥルメンタル・バンド mouse on the keys のリーダー/ドラマー。ポストハードコア、テクノ、現代音楽などをミックスしたサウンドで、幾何学的抽象を思わせる映像演出によるライブ・パフォーマンスは国内のみに留まらず、国外においても多大な反響を呼んでいる。国立新美術館やパリのポンピドゥセンターで行われた「安藤忠雄展-挑戦-」においてインスタレーションの音楽を担当。

世田谷区岡本町で育まれた音楽性

——故郷の世田谷区岡本町について教えてください。

今僕らがいるここ砧公園あたりは武蔵野台地の上で、台地の際に多摩川に沿って国分寺崖線が走っています。高台には高級住宅が立ち並び、晴れの日には崖の上から富士山が見えるんですよ。僕の生まれ育った岡本の実家は、その崖の一番下、高級住宅街の隣みたいなところにあった(笑)。近所には、三菱財閥総帥の岩崎弥太郎・小弥太親子が持っていた庭園と古美術を所蔵している静嘉堂文庫、江戸後期の家屋敷を保存している岡本家園、世田谷区指定重要文化財である実業家で政治家の小坂順造の別邸があり、さらに時代を越れば古代遺跡や古墳があった場所、歴史的に権力者やお金持ちが住んでいた地区なんです。風致地区にも指定されていて今も歴史と自然が残る閑静な住宅街で。

このような地区で、かつ僕が住んでいた頃はバブル期前後だったので、大きくて面白い建築物も多くありましたね。静嘉堂文庫にはジョー・アイ・コンドル設計の納骨堂があったり、象設計集団が設計した「起爆空間」っていう四方形25個、計100個の窓のある宇宙船のような建物もあった。当時は「起爆空間」なんて名前は知らなくて、「百目」とか「百窓」って近所では呼ばれて。意匠がメタボリズム的なのでつきり黒川紀章さんの設計だとばかり思っていたんだけど違いました(笑)。そこはウルトラマン

とかあばれはっちゃくのロケで使われて(笑)。僕は小学5年生頃に取り壊されたんだけど、残念です。

当時、夜に犬の散歩するのが日課だったんですけど、格好良い建物に当たると間接照明の感じいいなとか、このガラスとコンクリとサッシュの感じがカッコいいななんて思っていました。今思うと、建築への興味や美意識のようなものは、当時の環境で育まれ、ベースになったのかなって思います。mouse on the keysの音楽的ルーツってストリートから出てきたものなだけで、そこにとっても上品さや洗練さを入れたくなっちゃうのはそのためかもしれない。

文化を生み出す東京

——都市は文化を生み出して発信する場所だと感じますが、今の東京をどう感じますか？

頻繁に海外へ行くようになって、東京のカルチャーが成熟して来ている、素晴らしい方々がいっぱいいるなあと感じます。一方で、物やサービスが充分に行き届き過ぎて、乱暴に言うともうどれでも良いという評価軸になっている気がする。20代〜70代までもが現役の状況なので、今、若くて才能があっても正当に評価されない人たちがいるかもしれない。

でも層が厚く、競争が激しいことで、そんな